

国語 第3学年 豆太の気持ちの変化や性格を場面の移り変わりと結び付けて想像し、考えたことを伝え合おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書・東京書籍・教育出版の第3学年下巻に採録されている物語。単元名や手引きの問いは会社で違う。学校図書の採録はこちらで確かめられていないので、使う教科書の目次で確かめる。本文は小見出しで区切られているので、場面の分け方はその区切りに合わせる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、豆太の性格（夜は一人で外に出られないほどこわがりなのに、昼は木に向かって強がる。じさまが好きで、じさまに頼っている）を、ある場面だけでなく、複数の場面の叙述から言える。そのうえで、じさまが夜中に苦しみ、豆太が一人で医者様を呼びに走る場面の気持ちを、それまでの場面の豆太と結び付けて想像し、単元の問い「豆太は変わったといえるか」に自分の考えを根拠の叙述を挙げて伝え合い、友達と感じ方が違うことに気付く。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕の目標 (2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
〔第3学年及び第4学年〕の目標 (3)	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)イ	イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)エ	エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)カ	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(2)イ	イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(3)オ	オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(1)エ	エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(6)	(6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)キ	キ 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。

単元の目標

様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにし、文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読する（〔知識及び技能〕(1)オ・ク）。登場人物の行動や気持ちを叙述を基に捉え、気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる（C(1)イ・エ）。読んで考えたことを伝え合って一人一人の感じ方に違いがあることに気付く（C(1)カ）。また、言葉がもつよさに気付き、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っているとともに、語彙を豊かにしている。((1)オ) ②文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク)	①「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ③「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ)	①進んで、登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

単元の流れ

光村図書出版『国語（令和6年度版）』年間指導計画による全12時間（読⑫）。各時への活動の配分と本時の選定は、本案の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○範読を聞き、小見出しの区切りごとに「豆太は何をしたか」を一文で書く。 ○語り手が豆太をどう言っているかの言葉に印を付ける。 ○意味を知らない語句や昔の言い方を辞書で調べ、語句カード（様子・行動・気持ち・性格）に書く。 ○初発の感想（豆太について思ったこと、不思議に思ったこと）を読み合い、単元の問い「豆太は変わったといえるか」を決める。	知①（語句カード） 知②（音読の観察） 態①（観察）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	3	○夜の豆太の場面（一人でせっちんに行けず、じさまを起こす）を音読し、様子や行動の叙述に線を引いて、「豆太の表」に書く。ペアや全体で根拠を言い合う。	思①（豆太の表） 知②（音読の観察）
	4	○昼の豆太の場面（木に向かって強がる）を読み、豆太の表に書く。 ○昼の木と夜の木の見え方を比べ、「木の見え方の表」（昼・夜・灯がついた晩の3列）に書く。	思①（豆太の表）
	5	○祭りの話を聞く場面を読み、豆太の行動と気持ちを豆太の表に書く。	思①（豆太の表）
	6 （本時）	○豆太が医者様を呼びに走る場面を読み、様子や行動を表す語句からその時の気持ちを想像し、夜に一人で外へ出られなかった前の場面と結び付けて、気持ちの変化を自分の言葉で書く。	思②（ノート）
	7	○木に灯がついたのを見る場面を読み、木の見え方の表に灯がついた晩の木を書き足して、情景と気持ちを結び付ける。	思②（ノート）
	8	○元気になったじさまの言葉を聞く場面を読み、豆太の性格をどう捉え直すかを考える。	思①（豆太の表）
第3次	9～12	○単元の問いへの考えを「考え→根拠の叙述（場面と行動）→前の場面との結び付け→初発の感想からの変化」の順で書く。 ○グループで読み合い、同じ所と違う所に付箋を貼って全体で共有する。 ○学習を振り返る。学校図書館で斎藤隆介の他の作品を読む 並行読書を紹介する（(3)オ）。	思③（文章・付箋） 態①（文章の見直し・振り返り）

本時の案

本時の目標：夜道を走る豆太の様子や行動を表す語句から、その時の気持ちを具体的に想像し、夜に一人で外へ出られなかった前の場面と結び付けて、気持ちの変化を自分の言葉で書ける。(C(1)エ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前の場面までの「豆太の表」で、夜の豆太（一人でせっちゃんに行けず、じさまを起こす）と昼の豆太（木に向かって強がる）を確かめる。 2 じさまが夜中に苦しむ所まで、先生の範読を聞く。 ○「このあと豆太はどうしたでしょう」 【めあて】夜がこわい豆太が、なぜ、どんな気持ちで走ったのかを考えよう。 〈予想される児童の反応〉 ・走った。 ・医者様を呼びに行った。	・前の場面までの豆太の表を黒板に貼っておく。 ・「走った」「医者様を呼びに行った」を確かめてから、本時の問いを板書する。
展開 (分)	3 走る場面を一人で音読し、続けてペアで一文ずつ交代して音読する。 4 豆太が走っている様子や行動が分かる言葉に線を引く。 ○「豆太が走っている時の様子が分かる言葉はどれですか」 5 線を引いた言葉から、その時の豆太の気持ちを考える。 ○「その時の豆太はどんな気持ちだったでしょう。線を引いた言葉から考えよう」 6 前の場面の豆太と比べる。 ○「前の場面の豆太（夜に一人で外に出られない）と比べて、何が同じで、何が違いますか」 〈予想される児童の反応〉 ・泣きながら走った。 ・はだしで走った。 ・足が痛い、寒い、こわい。 ・月や星が出ている。 ・こわい、寒い、痛い。 ・じさまが死んでしまったら困る。 ・早く医者様を連れて帰りたい。 ・こわいけど走るしかない。 ・こわいのは同じ。 ・前と違って、一人で外に出た。 ・前と違って、自分のためではなく、じさまのために走った。	・気持ちを問う前に、様子や行動を表す語句を必ず確かめる。 ・挿絵ではなく言葉から考えさせる。 ・音読の時間を削らない。語り口調が独特で、黙読だけでは場面の様子が浮かびにくい子が多い。 ・気持ちを一語で言って終える子には「どの言葉から」と返す。 ・線が引けない子には先生が一か所だけ示し、先は自分で引かせる。 ・怖さだけ、または助けたい気持ちだけを書いた子には、両方を書いた子の発言を板書で上下に並べて見せ、「豆太の気持ちは一つだけか」と問う。 ・早く終わった子には「語り手は前の場面で豆太を何と言っていたか。この場面の行動と比べてどう思うか」を考えさせる。 ・台詞や叙述の引用は、使う教科書から先生が書き入れる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	7 豆太の気持ちの変化をノートに書く。 （型）「豆太は…な気持ちで走った。それは…という言葉から分かる。前の場面では…だったが、この場面では…」 8 二、三人が読み上げ、同じ所と違う所を確かめる。 9 振り返りを書く。	・二つの気持ちが同時にあることを認め、どちらか一つに決めさせない。「勇気」の一語でまとめない。 ・振り返りは「今日、言葉から分かった豆太の気持ち」と「友達の考えを聞いて思ったこと」の二つで書かせる。 ・次時は木に灯がついたのを見る場面を読むと伝える。 ・観察は態①の補助にする。 ◎思② 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（ノート）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に日付・題名・本時の問い。その左に前の場面までの豆太の表（夜の豆太・昼の豆太・じさまへの気持ち）。中央に、走る場面の様子や行動の言葉を子どもが見付けた順に右から短冊で貼り、矢印の先に気持ちを二列で書く（右の列に「こわい・寒い・痛い」、左の列に「じさまを助きたい・早く医者様を」）。その左に前の場面との比べ（同じ所・違う所）。左端にまとめの文の型と振り返りの観点二つ。

つまづきやすい所と手当て

つまづきやすい所は五つ。一つ目、「豆太は勇気のある子になった」と結論を急ぐ。手当ては、最後の場面でも夜の豆太の様子が前と変わっていない叙述があることを確かめ、「変わった所」と「変わっていない所」を分けて書かせること（C(1)エ）。二つ目、性格と気持ちの区別がつかない。性格は複数の場面に通して見える物、気持ちはその場面の物、と表の行を分けて書かせる。「性格」は第3学年のC(1)エに初めて出る言葉で、低学年のC(1)エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」との違いを先生が意識しておく。三つ目、語り手が豆太を評する言葉と、豆太の実際の行動が食い違う所を読み分けられない。手当ては、第1次で語り手の言葉に印を付け、表に「語り手の言葉」の行を作ること。四つ目、方言のような言い方や昔の暮らしの語の意味を知らない。手当ては、範読と音読を多くし、語句カードと辞書で確かめること（(1)オ、第3の2(1)イ）。五つ目、情景（昼の木・夜の木・灯がついた木）と気持ちを結び付けられない。手当ては、木の見え方の表で、同じ木が豆太の気持ちで違って見えていることを叙述で確かめること（C(1)エ、(1)カの修飾語）。

プリントの案

豆太の表（単元を通して使う）

横に場面（小見出しの区切りごと）、縦に「行動」「気持ち」「語り手の言葉」「性格の候補」の4行。行動の欄は叙述を書き写し、気持ちの欄はそこから考えたことを書く。場面の間に矢印を印刷し、変わったきっかけを書き込む。C(1)イ・エに合わせた。

本時のワークシート（医者様を呼びに走る場面）

上に、走っている様子や行動が分かる言葉を書き写す枠。右に矢印と、気持ちを書く枠を上下二段（こわさの側と、助けたい側）。中ほどに「前の場面の豆太と比べて、同じ所・違う所」の二つの枠。下に「豆太は…な気持ちで走った。それは…という言葉から分かる。前の場面では…だったが、この場面では…」の型。本文は先生が教科書から書き入れるので印刷しない。

木の見え方の表

横に「昼の木」「夜の木」「灯がついた晩の木」の3列、縦に「木の様子を表す言葉（書き写す）」「その時の豆太の気持ち」の2行。同じ木が豆太の気持ちで違って見えることを確かめる。C(1)エの「情景」と(1)カの修飾と被修飾の関係に合わせた。

語句カード（様子・行動・気持ち・性格）

一枚に、見付けた語句、どの場面にあったか、辞書で調べた意味、その語句を使った自分の一文。四つの種類のどれかに印を付ける。昔の言い方や方言のような言い方は「今の言い方」の欄にも書く。〔知識及び技能〕(1)オに合わせた。

単元の問いの作文用紙と振り返りカード

作文用紙は「自分の考え」「根拠になる叙述（場面と行動）」「前の場面との結び付け」「初発の感想から変わったこと」の四つの枠。振り返りカードは「今日、言葉から分かった豆太の気持ち」「友達の考えを聞いて思ったこと」の二つの枠。C(1)オ・カに合わせた。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価規準の文末と3観点の形、第3学年及び第4学年C読むことの評価規準（例）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第3学年245・第4学年245）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／三重県で公開されている小学校の学習指導案の形（見出しの順と表の列）に合わせた。中身は写していない。例：三重県総合教育センター掲載の実践事例集（令和7年度）（https://www.mpec.jp/wp-content/uploads/2026/03/r7_ICT_English_case_studies.pdf）／東京都教職員研修センター 学習指導案書式例（令和5年）。評価規準3観点の並びだけ使った（<https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/>）／光村図書出版 年間指導計画。現在の単元範囲・時数・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（3年）「3年下巻」112行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

